

「福島イノベーション・コースト構想」教育・人材育成支援事業
エ ネ ル ギ ー 講 演 会

去る10月8日（木）、「福島イノベーション・コースト構想」教育・人材育成支援事業の一環として、「エネルギー講演会」を行いました。

福島大学より、システム理工学類教授の佐藤理夫氏を招聘し、再生可能エネルギーや福島県の取り組みなどについて講演をしていただきました。

最近地球温暖化の影響で100年前より1.5度も気温が上昇しているそうです。その地球温暖化を防止するための取り組みとして再生可能エネルギーの普及が挙げられます。

再生可能エネルギーとは、太陽光や風力、地熱などの自然界に常に存在するエネルギーのことです。

私達が普段使っているエネルギーはほとんどが火力発電や原子力発電で発電されたものです。しかし、火力発電は石炭を多く使うので二酸化炭素の排出量がとても多い。また、原子力発電は二酸化炭素は排出しないものの、事故が起これば放射線物質が大量に放出され東日本大震災のように健康や環境に悪影響を及ぼします。

福島県は東日本大震災が起こり原子力発電の怖さを思い知りました。そこで福島県では「原子力発電に依存しない県」を目標として発電設備を整え、2040年頃の再生可能エネルギーの普及100%を目指しているという。そのために各地にソーラーパネルを設置したりダムや風車の設置場所の工夫を行ったりしている。佐藤教授は「福島で育ったシステムが日本を救う。その活動の後を継ぐのは君たちです。」と最後に力強く話をされました。

1年生にとって今回の講演会はこれからの探究活動にとっても役立つものとなりました。



＜福島大学 佐藤理夫 教授 の講演を拝聴する1年生＞